

1. 活動の成果

①24年度の柱を何にするか、NPO法人ワット神戸としては、初めて1日かけて全体研修会を開催しました。その結果、自然エネルギーの固定価格買取制度が7月から実施されるのにあわせ、ワット神戸自ら太陽光発電所を建設することを決め準備を開始しました。

経過は別紙にありますようにワット神戸の持つ資源を集中して、24年度内に設備を完成、「ワット神戸夢前発電所」と名付け25年4月4日に発電を開始しました。



写真左：建設予定地



写真中：造成工事



写真右：完成写真

今後、この夢前発電所をモデルに発電所ビジネスや普及啓発活動を行います。

②エネルギーネットワーク事業は、従来通り次の各チームで活動しました。

太陽光発電所建設に注力したため、リーダー会議開催が少なく、各チームの活動をリードできなかったことが反省点としてあげられます。

イ. 太陽光発電推進チーム

発電所建設の主体になると共に、大規模発電所の見学や関連技術の勉強を行いました。

ロ. 太陽光発電応用チーム

e-potの改良を進め、バージョンアップとコストダウン、市場の開拓を進めました。

ハ. 小型風力発電チーム

チームとしての会議は2回でしたが、マイクロ水力発電や東大阪の中堅企業の相談に対応しました。

ニ. 色素増感型太陽電池研究会

神戸高専、津吉研究室を中心に実験を重ねています。

ホ. エネルギー診断チーム

省エネセミナーへの講師派遣、国や地方の予算措置の相談に対応しました。

③普及啓発活動は「ひようごエコフェスタ」「国際フロンティアメッセ」に出展しましたが、例年参加している「びわ湖環境ビジネスメッセ」には出展企業の少ないことから今回は見送りました。

一方、アースパル神戸やエコレンジャーと協力して、中学生向けの環境教育活動を行うとともに、朝来市建屋小学校PTAから依頼を受けて、PTA、生徒、先生を対象に太陽光発電の勉強会を開催できました。

写真は講師の岡田アドバイザー、豊田アドバイザーの話聞く建屋小学校のみなさん。



④会外からの相談や講師派遣も積極的に参加しました。

兵庫県中小企業家同友会LINCの活動として、「太陽光発電ビジネス」をテーマにセミナーを開催し50名を超える参加者があり成功しました。

また、太陽光発電や省エネなど14件の相談があり、積極的に対応しました。

省エネでは、企業と有償で契約する可能性も生まれています。

うちエコ診断では3人の診断員が、ひょうご環境創造協会の依頼で活躍しています。

また、神戸市の環境未来都市推進をめざす委員会には津田会長が参加し、環境都市としての採択に貢献しています。

⑤分野別の活動件数は次の通りです。小委員会や打ち合わせは含んでいませんが、それでも延べ166回の活動が行われ、会員アドバイザーが延べ680名、会外の方もイベントの来訪を含め1400名を越える方が参加されています。一覧表にすると下記の通りです。

種類	区分	回数計	参加計	外部参加計
役員会等	1	20	140	0
アドバイザーグループ	2	35	211	0
太陽光推進チーム	3	12	85	5
太陽光応用チーム	4	6	45	0
小型風力発電チーム	5	2	13	4
エネルギー診断チーム	6	10	39	112
	7	0	0	0
総合	8	4	8	0
外部講師・委員	9	43	110	453
イベント・セミナー	10	32	150	2940
相談対応	11	25	46	38
総計		200	864	3564